

須川展也 サクソフォンリサイタル

ピアノ：小柳美奈子

1部

アヴェ・マリア …………… カッチーニ(朝川朋之編)

美しい夕暮れ …………… ドビュッシー(樋口康雄編)

日本民謡による狂詩曲 …………… 石川亮太

アルト・サクソフォンとピアノのためのソナタ … チック・コリア

“Florida to Tokyo”須川展也委嘱作品 / 2016

2部

シャコンヌ(無伴奏ヴァイオリン・パルティータ 第2番より) … J.S.バッハ

サイバーバード協奏曲(ピアノ・リダクション版) …………… 吉松 隆

第1楽章：彩の鳥

第2楽章：悲の鳥

第3楽章：風の鳥

春

2017
四季コンサート

2017年4月14日(金) 18:00開場 18:45開演

会場：アクトシティ浜松中ホール

主催：浜松音楽友の会

プロフィール

須川展也 (サクソフォン)

日本が世界に誇るサクソフォン奏者。東京藝術大学卒業。第51回日本音楽コンクール、第1回日本管打楽器コンクール最高位受賞。出光音楽賞、村松賞を受賞。98年JT音楽家シリーズTVCM出演、02年NHK連続テレビ小説「さくら」のテーマを演奏。須川による名だたる作曲作品の多くがクラシカル・サクソフォンの主要レパートリーとして国際的に広まっている。89年から2010年まで東京佼成ウインドオーケストラ・コンサートマスターを務めた。

14年にデビュー30周年を迎え、東京文化会館大ホールでの記念公演は全席完売の大盛況となった。これまでに約30枚のCDをリリース。最新CDは2016年10月発売の「マスターピースーズ」(ヤマハミュージックコミュニケーションズ)。2014年には著書「サクソフォーンは歌う！」(時事通信社)を刊行。トルヴェール・クワルテットのメンバー、ヤマハ吹奏楽団常任指揮者、静岡市清水文化会館マリナート音楽アドヴァイザー&マリナート・ウインズ音楽監督。東京藝術大学招聘教授、京都市立芸術大学客員教授。

オフィシャルサイト <http://www.sugawasax.com>

フェイスブックページ <https://www.facebook.com/NobuyaSugawa.saxophone>

小柳美奈子 (ピアノ)

東京藝術大学卒業。伴奏のイメージを変えてしまうアンサンブル・ピアニスト。様々なプレイヤーの呼吸の機微を読み取り、それに寄り添うしなやかな感性を数多くの公演、録音で発揮している。吉松隆「サイバーバード協奏曲」の準ソリストとしてフィルハーモニア管弦楽団とも共演。

須川展也、トルヴェール・クワルテットの共演者としてのキャリアも長く、多くの録音に参加。パーカッションの山口多嘉子とのデュオ「パ・ドウ・シャ」でCD発表。トリオ「YaS-375」メンバー。



須川展也
サクソフォンリサイタル

NOBUYA SUGAWA
SAXOPHONE RECITAL

●カッチーニ (1545?~1618) (朝川朋之編) / アヴェ・マリア

ジュリオ・カッチーニは、16世紀後半にフィレンツェのカメラータというグループの中心人物として活躍した作曲家、テノール歌手で、現存する最古のオペラ《エウリディーチェ (1600年初演)》をペーリとともに作曲したことで知られている。この作品は、1970年頃から「カッチーニのアヴェ・マリア」として広く演奏されてきたが、出典が明らかでないこと、歌詞がすべて「Ave Maria」の繰り返りでバロック様式に沿っていないことなどから疑義が生じ、結果カッチーニの作ではなく、ロシアの作曲家ヴラジミール・ヴァヴィロフ (1925~73) が書いたものと判明。ヴァヴィロフは自作を著名作曲家名で発表する癖があったゆえの混乱であった。

●ドビュッシー (1862~1918) (樋口康雄編) / 美しい夕暮れ

クロード・ドビュッシーが1878年、パリ音楽院に在籍していた16歳のときの作品。作曲の経緯や初演などは不明だが、ドビュッシーの歌曲としては「星月夜」に続く作品で、当時関心を寄せていたポール・ブルジェの詩を用いている。刻々と彩りを変えていく伴奏のアルペジオ、そしてそれに乗った旋律のデリケートな風情は、若きドビュッシーの天才をよく表している。

●石川亮太 (1983~) / 日本民謡による狂詩曲

作曲者の石川亮太は、以下のように語っている。

「須川さんから『日本民謡のメロディや津軽三味線のフレーズを使ったラブソディを書いて欲しい。そしてそれを世界に発信したい』というオファーをいただきました。全曲を通して現れるのは《津軽じょんがら節》。冒頭で高らかに歌われるのが『新節』で、それに続くのが三味線で演奏される『曲弾き』。《会津磐梯山》や尺八の名曲《鹿の遠音》を経て、歌心を堪能できる《竹田の子守唄》、さらに《黒田節》によるカデンツァの後、《阿波踊り》と《ソーラン節》のお祭り騒ぎで華やかなフィナーレを迎えます。サクソフォンの表現力がこれほど豊かであることを、皆さまにもききと感じていただけると確信しています」

●チック・コリア (1941~) / アルト・サクソフォンとピアノのためのソナタ

“Florida to Tokyo” 須川展也委嘱作品 / 2016

チック・コリアは、アメリカのピアニスト、作曲家。ジュリアード音楽院に学び、メイン・ストリーム・ジャズからフュージョン、前衛まで多種多様な音楽活動で知られており、近年はクラシカルな傾向も示している。この作品はチック・コリアの大ファンである須川による委嘱であり、その須川があるインタビューで語っている。「スタンダード・ナンバーの薫りとはまた違った、今のコリアさんが演奏している音楽のスタイルが存分に盛り込まれている作品です。ある程度玄人好みの曲で、チック・コリアさん好きな方なら『おお…来た!』と思っただけのような…。〈ソナタ〉となってはいますが、ソナタ形式というわけではなく、二重奏という意味です。楽譜に全部起こしていただいて、アドリブ部分はないのですが、将来的には自由に崩してアドリブを加えてもいいというお話はいただいています」

●J.S.バッハ (1685~1750) / シャコンヌ (無伴奏ヴァイオリン・ハルティータ 第2番より)

J.S.バッハがケーテンの宮廷楽長を務めていた1720年頃に書いた、「無伴奏ヴァイオリンのためのハルティータ第2番」の第5楽章が〈シャコンヌ〉である。シャコンヌとはフランスの古い舞曲で、冒頭8小節の雄渾で荘重な主題が幾度も顔を覗かせ、それに係わる変奏が続いていく。全体はおおよそ3つの部分に分けられ、第1部は二短調、第2部は二長調、第3部は二短調、そして最後に主題に回帰する。調の長短を交差させ、徐々に短くなる非対称性が一層緊迫感を増大させている。ヴァイオリン音楽の最高峰たる長大な作品であると同時にバッハ音楽の真髄ともいえる傑作であり、今日はサクソフォン独奏による編曲版で演奏される。

●吉松 隆 (1953~) / サイバーバード協奏曲 (ピアノ・リダクション版)

吉松隆は、今や日本を代表する作曲家である。ロックやジャズをも体験しながらほぼ独学で作曲を学び、その作風は独自の方向性を示している。「サイバーバード協奏曲」は、須川展也の委嘱により、前作「ファジーバード・ソナタ」に続いて完成され、1994年3月、須川の独奏、円光寺雅彦指揮読売日響の演奏で初演、以降各地で繰り返し再演されている。「サイバーバード」とは、電脳空間に住む架空の鳥。吉松作品には鳥をテーマにしたものが多いが、この作品の作曲時、吉松の実妹がガンのため夭逝した。吉松は、「今度生まれてくる時は鳥がいいと言って亡くなった妹の名を第2楽章に刻印した。つまりこの曲は、生命維持装置などに囲まれて最後まで自由な飛翔する鳥を夢見た妹と、私の見果てぬ夢でもある」と語る。原曲はサクソフォン、ピアノ、パーカッション、オーケストラという編成であるが、今回はピアノとのデュオ版で演奏される。

アンコール曲

1. ヴィットーリオ・モンティ / チャルダッシュ
2. 真島俊夫 / シーガル (Seagull)